東北農業研究（Tohoku Agric. Res.） 47, 381－382（1994）

山形県における果樹作の雇用労働力確保と地域労働力調整の課題

須藤英弥・高橋みどり*
（山形県立農業試験場・*寒河江農業改良普及所）

Problems about Keep on Labor and Coordinate to Labors on Areas of Fruit Farm in Yamagata Prefecture

Hideya SUTO and Midori TAKAHASHI*
（Yamagata Prefectural Agricultural Experiment Station・*Sagae Agricultural Extension Service Station）

1 はじめに

県内の果樹産地では，地域の労働力が他産業に流出し，必要な雇用労働力を確保できにくい現状にあり，特にサクランボの収穫や出荷・調整作業の雇用労働力不足は深刻である。そのため，①果樹作経営の雇用農家とその被雇用者に対するアンケート調査，②県内の農協農作業無料職業紹介事業の運営状況調査を行い，果樹作における雇用労働力の確保と地域労働力調整に関する課題を検討した。

2 山形県の農業雇用の推移と果樹作の雇用形態

山形県の農業雇用は大幅に減少し，農業センサスによると1970年では56%の農家で農業臨時雇を雇入れていたのに対し，1990年では14%の農家が農業臨時雇を雇入れたにすぎない。農業臨時雇を雇入れた農家数が多い市町村はほとんどが果樹地帯である。山形県で果樹の特化係数が最も高い東根市は，1990年で農家戸数の44%が農業臨時雇を雇入れており，1985年と比較すると農業臨時雇を雇入れた農家数が増加している。それは近年のサクランボを中心とした果樹の栽培面積の増加と関連が深いと考えられる。

また，サクランボを栽培している果樹作経営で雇用労力を必要とするのは，作業が集中する約1か月間の収穫～調整・出荷の時期である。一部にサクランボとリンゴの組合せにより6～9か月間の雇用や農産物加工等を組合わせることにより周年的な雇用がみられるが，サクランボ関係の雇用は上記の理由により短期間にならざるを得ない状況にある。

3 雇用導入果樹農家と被雇用者の意向

(1) 被雇用者に対するアンケート調査結果

東根市神町農協管内の果樹農家で働いている被雇用者35名から回答を得た。回答者は男性13名（全員農家），女性22名（うち農家11名）である。①農業関係の仕事に従事した理由に関しては「頼まれたから」が多いものの，「休日がとりやすい」「農作業が向いている」「就業時間が比較的自由」「経験能力を生かす」「農産物がもらえる」という回答が多いことから農業ならではの良さも考慮されていると考えられる。②就業条件で改善すべきことについては，「賃金」が最も多いが，他のアンケート項目で80%以上が「まあまあ」「高い」と回答しており問題は少ないと考えられる。次いで「労災保険への加入」「雇用保険への加入」といった社会保険面の改善の要望と，「作業が危険」「作業所の不備」「作業がきつい」といった作業環境面の改善要望が多い。③希望する従事時間では，全体的にほとんどの人が「1日（8時間）」を希望しているが，非農家女性では，約40%が「パートタイム」の就業形態を望んでいる。

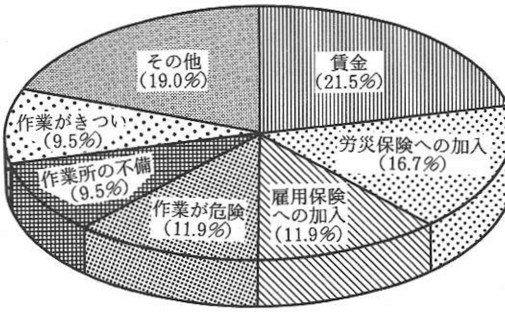

図1 就業条件で改善すべきこと（複数回答）（被雇用者：35名）

(2) 雇用農家に対するアンケート調査結果

東根市神町農協管内の雇用を導入している農家34名から回答を得た。回答者は専業農家31名（うち果樹単一経営30名），兼業農家3名である。全員がサクランボ（平均50ａ）とリンゴ（平均103ａ）を栽培しており，平均雇用人数（実人数）は4名である。①現在の労働力については，全体では70%以上の農家で「現在の労働力で十分」としているが，サクランボの栽培面積50ａ以上の農家では「現状で十分」とする農家は60%にすぎず，大規模農家層での労働力不足が深刻である。②雇用農家が雇用労働力確保のために改善が必要と思うことについては，「作業環境の整備」「労災保険の加入」「賃金の改善」が必要という回答が多い。サクランボ栽培50ａ以上の農家で「作業環境の整備」が30%近いのに対し，50ａ以下の農家ではわずか6%であり，経営規模による作業環境の整備に関する認識の違いが表れている。③雇用に関して行政・農協に望むことについては，当地域では無料職業紹介事業等が行われていないため「被雇用者の募集・斡旋」がトップで約60%を占めている。特に，サクランボ栽培50ａ以上の農家での要望が多い。

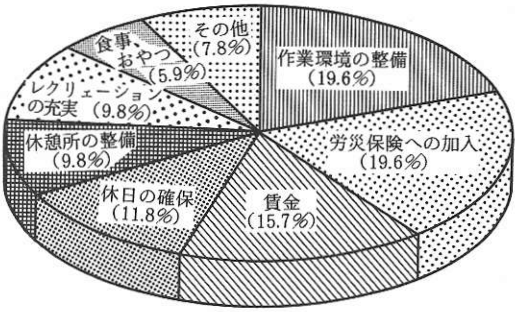

図 2　雇用確保のため必要と思うこと（複数回答）
（雇用農家：34名）

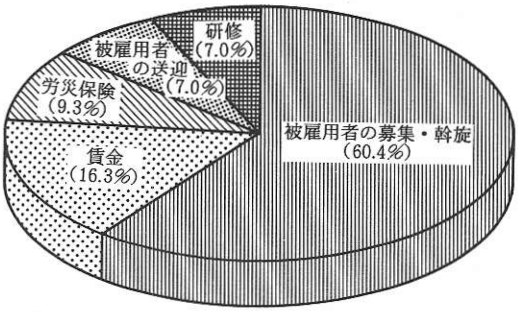

図 3　雇用に関し行政・農協への要望（複数回答）
（雇用農家：34名）

表 1　山形県における農協農作業無料職業紹介事業の実績（1993年，1994年 1 月現在）

地域	農協名	設立年月日	許可期間	紹介実績	主な農作業の種類	事業の周知及び求職者の募集方法	担当部所	有資格者
村山	◎A農協	90/1/1	93. 1. 1～95. 12. 31	46	サクランボの収穫調整作業	チラシ，クチコミ	営農部	3
	◎B農協	89/1/1	92. 1. 1～94. 12. 31	1,351	サクランボの収穫調整作業	マスコミ，クチコミ	総務部	1
	◎C農協	90/8/1	92. 8. 1～94. 7. 31	0	リンゴの摘果摘葉作業等(以前)	広報誌，チラシ	営農部	1
	◎D農協	89/1/1	92. 1. 1～94. 12. 31	154	サクランボの収穫調整作業	マスコミ，クチコミ	営農部	4
	◎E農協	90/8/1	92. 8. 1～94. 7. 31	807	サクランボの収穫調整作業	クチコミ	営農部	1
	F農協	89/1/1	92. 1. 1～94. 12. 31	0	スイカの収穫調整作業(以前)	チラシ(以前)	営農部	1
	G農協	90/1/1	93. 1. 1～95. 12. 31	0	スイカの収穫調整作業(以前)	なし	営農部	2
置賜	◎H農協	89/8/1	92. 8. 1～94. 7. 31	315	ブドウのジベ処理作業	なし	営農部	2
	I農協	89/1/1	92. 1. 1～94. 12. 31	50	スイカ・オカヒジキの収穫処理作業	広報誌，クチコミ	営農部	1
庄内	J農協	90/1/1	90. 1. 1～92. 12. 31	0	アスパラの収穫調整作業(以前)	チラシ(以前)	総務部	0

注．◎印は，主に果樹作業に関して紹介事業を行っている農協，また担当部所は正式名称ではない．

4　地域的な労働力調整の取り組み

(1)　農協農作業従事者無料職業紹介事業について

山形県内の農協農作業従事者無料職業紹介事業は，1989年と1990年に10農協で設立されたが，求職者の紹介実績は県合計で1990年の延7000人日をピークに減少傾向にある。そのうち主に果樹作業に関しての紹介事業を行っている農協は村山地区を中心とした 6 農協である。紹介実績が減少した理由は，生産組織が運営する選果場等の紹介が実績に含められなくなったこと，紹介した人が次年度から紹介所を通さず相対で契約してしまう等があるが，最も大きな問題は求職者の新規開拓が難しいことである。

(2)　B地区における労働力調整の取り組み

B地域は，県内でB農協農作業無料職業紹介事業の紹介実績（延日数）が最も多く，設立から順調に事業を拡大してきている。その理由として当地域は中核的な都市であり県都山形市と隣接し交通の便が比較的良いため都市部の求職者を吸収できるという立地条件面と，営農担当だった担当者が内勤事務に移り業務に専念できることと管内農家の経営や労力事情に精通しているという農協の体制面での特徴があり，更に，当地域のシルバー人材センターと情報交換し融通しあっているという関係機関との連携面があげられる。しかし，1990年センサスの農業臨時雇の延人数に比較して，農協無料職業紹介所とシルバー人材センターの延人数を合計しても 8 %程度であり，相対の募集・紹介が多いことがわかる。

表 2　B地域労働力調整（1993年）

	農業臨時雇 (90年センサス)	B地域労働力調査(合計)	B農協無料職業紹介所	B地域シルバー人材センター
延人数（人日）	27,610	2,240	1,350	890
割　合（%）	100.0	8.1	4.9	3.2

注．農業臨時雇は全農家を対象としているが，地域労働力調整は果樹農家の実績である

5　ま　と　め

雇用を導入する農家側の対応として，労災保険等の社会保険面や「パートタイム」就業時間等の就業条件，安全で快適な作業環境への改善が必要である。また地域的な対応として，組織的な被雇用者の募集・斡旋が望まれることから，産地の地域的な取り組みを促し，求職者開拓のノウハウを蓄積するために無料職業紹介所間の情報交換と連携を図り，労働力調整方法のシステム化への検討が必要である。そして，雇用労働力不足は大規模果樹作経営で顕著なことから，行政・普及・農協等関係機関は，個別農家における改善と地域的な取り組みに対応した啓蒙活動や補助・融資事業等により幅広い支援を行うことが必要と考えられる。